

会議録

1 会議名

令和2年度第1回上越市自殺予防対策連携会議

2 議事（公開・非公開の別）

（1）上越市・新潟県の自殺の現状（公開）

① 上越市の現状

② 新潟県の現状

（2）令和2年度の自殺予防対策の取組（公開）

① 上越市の取組

② 上越地域の取組

（3）事例検討（非公開）

3 開催日時

令和2年8月25日（火）午後2時から午後4時まで

4 開催場所

ユートピアくびき希望館 第3会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

個人に関する事項が含まれるため

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

委員：川室優、長谷川雅美、岩野秀人、小宮山陽子、壘真穂、平野由香、松本新一、江部健幸、柴好子、横山麻子、浅野健志、五十嵐恵美子、中沢麻有子、高原稔、松縄麗、山田洋子、富樫友実子、澁谷恵子、山本克志、丸山智彰、森山一夫、丸山富一郎、宮川高広、山崎光隆、米田知弘（代理）、内田慎一、山崎絵里子、稲田善智、古澤篤（代理）、熊木研二、田中美恵子

（出席31名 欠席1名）

事務局：市川福祉部長

すこやかなくらし包括支援センター

渡辺晶恵所長、岩崎一彦次長、高宮輝行上席社会福祉士長、長谷川大主任、菅井祥太主任、江口直美主任

健康づくり推進課

伊倉さつき保健師長、横山加奈恵主任、浅野智美主任

8 発言の内容

○開会

○挨拶 市川福祉部長

○ 議事

(1) 上越市・新潟県の自殺の現状（公開）

①上越市の現状

資料 1, 2 に基づき長谷川主任（事務局）から説明。

②新潟県の現状

資料 3 に基づき中沢委員（新潟県精神保健福祉センター）から説明。

（質疑）

川室会長：自殺対策の普及啓発グッズは、令和 2 年 4 月から配布しているのか。

中沢委員：令和 2 年度において新潟県障害福祉課で作成したもので、私たちの手元には、最近届いたものである。

川室会長：具体的にどのような配布先を考えているのか。

中沢委員：数量は限られているので、研修や会議の場での配布を考えている。

富樫委員：保健所にも届いている。9 月の推進月間に合わせ、各商業施設や公共施設に依頼をして、置いていただこうと考えている。もっと良い方法があればご意見をいただきたい。

川室会長：高齢者の自殺率が高いことや反射板がついていることから、高齢者に配布できると素晴らしいと思う。高齢者の組織の中で配布するのも一つの方法ではないか。

五十嵐委員：80 歳以上の自死者が多いが、その理由はわかるか。

長谷川主任：現状、一つ一つのケースを追えていないが、複数の病気を抱えているケースや、介護で周囲に迷惑をかけたくないとってしまうケースのほか、体が動かなくなり、生きがいがなくなってしまうケースがある。上越市では、できるだけ孤立しないような取組を地区ごとで行っている。

五十嵐委員：介護をしている人が介護うつになり、増加したということはないのか。介護が辛く、死にたいという話を聞いたことがある。

長谷川主任：全ての事案の原因を追うことは難しい。今後もできる範囲で、地域の課題を抽出していきたい。

川室会長：高齢者に自殺が多い理由は、高齢者自身に複合的疾患があるため、身体的、健康的問題が要因であることは確かであり、それにプラスアルファの要因が加わることをご理解いただきたい。また、介護疲れからうつ状態となり、それが要因となることもあり得る。

壘委員：当院は、外来患者の、2 割から 3 割がうつ、躁うつの診断で通院している。新患は月に 80 件前後あり、認知症に続いてうつが多い。年代別に大差はないが、70 歳代以上、20 歳代の方が、最近は増えている。70 歳以上の方では、高齢に伴う身体機能の低下、今後の不安、配偶者の介護疲れや不安などからの不眠、意欲低下、抑うつ症状での受診などがある。

20 歳代では、仕事、職場での対人関係、適応等の問題から、衝動的に自殺行為を図るケースもあった。

最近では、市の健診の際、産後うつで受診を勧められた方や出産後入院先の病院から受診を勧められ、受診に繋がったケースがある。

精神科病院においては、不安だ、眠れない、死にたいなど、うつ状態で受診した場合、薬物療法を開始する。また、心理検査を実施することが多く、検査の結果、発達障害やパーソナリティ障害、統合失調症といった傾向を明らかにし、特性を踏まえ、症状の緩和や問題への対応を行っている。

通院中の患者が自死をこころみるケースもある。通院しているから安心ではなく、症状に波がある自殺のハイリスクケースへの対応を病院の中でも検討している。今後もいのちとこころの支援センターや、上越市と連携していかなければならないと考えている。

川室会長：医療機関でもハイリスクケースについては神経を使っている。今後も、いろいろと検討する必要があると考える。

(2) 令和2年度の自殺予防対策の取組（公開）

①上越市の取組

資料4～7に基づき長谷川主任（事務局）、伊倉保健師長（健康づくり推進課）から説明。

②上越地域の取組

資料8に基づき富樫委員（上越地域振興局健康福祉環境部）から説明。

（質疑）

長谷川委員：若者はあまり相談に来ない傾向がある。親は時々、当事者グループに来るが、本人は継続しないことも多い。若者対策について、心配していたが、高校生向けにも予防対策が講じられているということで安心した。言葉かけを大事にし、いかに具体的にしていくかが課題である。

また、高齢者には、民生委員などの地域でのサポートが必要だと思う。そこを具体化する案を考えていただきたい。

川室会長：上越市では、保健師が地域に入り小グループで、うつや自殺について説明をしている。その効果もあり、自殺死亡率を下げているのではないかと思う。

また、高校生の出前講座も良い方法であると思うが、具体的なSOSのサインをどのように見つけていくのか教えてほしい。

富樫委員：高校生向けには、心の調子が悪い時は誰にでもあることを話している。眠れない、イライラするなど心の不調のサインに気づいたら、どうしたら良いのかを伝えている。具体策として、気分転換などの方法もあるが、相談するよう話をしている。相談機関についても紹介している。

高校生などの若者は、相談に行くとどうなるのかわからず不安だと思うので、具体的な相談場面が想像できるように、具体的な流れを短くまとめたものを示している。

教職員には、いわゆるゲートキーパー研修として、気づきのポイントを伝えて

いる。例えば高校生の場合、突然成績が下がったり、身だしなみを気にしなくなるなどのチェックポイントを研修で伝えている。

川室会長：高校生は非常にセンシティブな思春期心性がある。追い込むことがないように慎重に対応していただきたい。ただ、この出前講座は、アプローチとして非常に良い取組であり、評価、検証を続けることが大事である。

(3) 事例検討（非公開）

(4) その他

令和2年度第2回会議は来年2月の予定

(5) 閉会

挨拶 渡辺所長

9 問合わせ

福祉部すこやかなくらし包括支援センター

TEL：025-526-5623

E-mail：sukoyaka@city.joetsu.ig.jp

10 その他

別添の資料も併せてご覧ください